

9月施設彼岸小ギクの安定生産技術の確立

花き全国技術実証2023協議会【担当機関：長崎県農林技術開発センター】

背景とねらい

暖地では夏季補完品目の導入による経営の安定化が望まれている。小ギクは他品目と比較して栽培期間が短く、安定的な需要があるため、補完品目としての期待が寄せられている。

しかし、夏秋期の小ギクは近年、夏場の高温等の影響により開花時期が不安定であり、計画出荷が困難となっている。

そこで、本県主力品種とその他有望品種について、栽培試験を行うことで、9月彼岸需要期に出荷が可能な施設夏秋小ギクの特性を明らかにする。

実証技術の概要

表1 消灯時期の違いによる切り花品質の比較

品種名 (花色)	消灯日 (月/日)	収穫期間 (月/日)	到花 日数	切り花長 (cm)	FF
精しはく (白)	7/15	9/4 ~ 9/10	53	90.3	1.2
	7/20	9/11 ~ 9/15	54	90.6	1.1
	7/25	9/11 ~ 9/16	50	105.5	1.0
精しらいと (白)	7/15	9/10 ~ 9/16	60	84.8	1.0
	7/20	9/19 ~ 9/22	62	94.8	1.0
	7/25	9/22 ~ 9/27	61	99.1	1.0
SWC1 (白)	7/15	9/19 ~ 9/25	69	83.0	1.5
	7/20	9/28 ~ 9/30	71	95.1	1.4
	7/25	9/29 ~ 10/1	67	104.0	1.4
精かのか (白) (対象)	7/15	9/7 ~ 9/11	56	92.2	1.3
	7/20	9/10 ~ 9/16	55	109.1	1.3
	7/25	9/12 ~ 9/17	52	105.6	1.3

品種名 (花色)	消灯日 (月/日)	収穫期間 (月/日)	到花 日数	切り花長 (cm)	FF
精なつか (黄)	7/15	9/2 ~ 9/8	52	81.0	1.0
	7/20	9/4 ~ 9/10	49	86.3	1.0
	7/25	9/12 ~ 9/15	50	102.2	1.4
精かりやす (黄)	7/15	8/31 ~ 9/4	49	76.4	1.0
	7/20	9/5 ~ 9/11	50	84.4	1.0
	7/25	9/11 ~ 9/15	50	94.8	1.0
精やさか (黄)	7/15	9/10 ~ 9/16	60	85.3	1.2
	7/20	9/11 ~ 9/15	55	86.3	1.0
	7/25	9/11 ~ 9/16	50	84.9	1.0
SYC1 (黄)	7/15	9/19 ~ 9/25	69	89.2	1.5
	7/20	9/19 ~ 9/26	64	93.8	2.0
	7/25	9/28 ~ 9/30	66	106.4	1.3
精はぎの (黄) (対象)	7/15	9/11 ~ 9/16	60	85.8	1.6
	7/20	9/14 ~ 9/18	58	86.8	1.6
	7/25	9/15 ~ 9/18	53	99.5	1.3

品種名 (花色)	消灯日 (月/日)	収穫期間 (月/日)	到花 日数	切り花長 (cm)	FF
精こうめ (赤)	7/15	9/11 ~ 9/15	59	85.1	1.0
	7/20	9/11 ~ 9/16	56	93.8	1.0
	7/25	9/19 ~ 9/25	59	88.6	1.0
精ゆつき (赤)	7/15	8/29 ~ 9/6	50	82.9	1.0
	7/20	9/1 ~ 9/9	47	91.4	1.0
	7/25	9/12 ~ 9/15	50	86.7	1.0
精あかり (赤)	7/15	9/10 ~ 9/16	60	86.7	1.3
	7/20	9/11 ~ 9/15	55	94.5	2.0
	7/25	9/18 ~ 9/22	57	94.3	1.8
精ひさな (赤)	7/15	9/9 ~ 9/15	59	84.5	1.0
	7/20	9/11 ~ 9/15	55	87.8	1.0
	7/25	9/15 ~ 9/18	53	102.2	1.0
SRC2 (赤)	7/15	9/19 ~ 9/22	67	89.9	1.5
	7/20	9/19 ~ 9/22	62	89.2	1.3
	7/25	9/28 ~ 9/30	66	91.5	1.8
精はんな (赤) (対象)	7/15	8/27 ~ 9/4	46	82.9	1.0
	7/20	9/1 ~ 9/10	47	89.5	1.0
	7/25	9/11 ~ 9/15	49	82.6	1.0

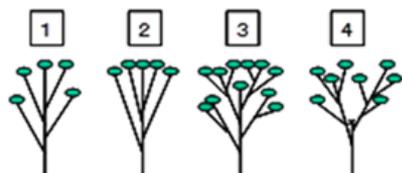


図1: FF (フラワーフォーメーション)

定植日：5月30日 摘芯日：6月6日
整枝日：6月26日 3本/株

実証技術の経済性

電照設備導入コスト（10a・長崎県基準技術参照）

電照設備導入費 871千円
 年間償却額 62千円
 電球は14個/10a使用

経営改善効果（10a）

販売単価
 73.0円/本 → 77.3円/本
 （需要期後） （需要期前）

販売金額
155千円の増

※彼岸需要前後（9月11から18日、9月27日から10月4日、セリ4回）における長崎花市場の平均単価

参考. 経営評価

項目/品目名	9月盆需要期前	9月盆需要期後
生産量（本）	36,000	36,000
平均単価（円/本）	77.3	73.0
販売金額（円）	2,782,800	2,628,000
種苗費	90,000	90,000
生産資材費	276,108	276,108
減価償却費	102,381	102,381
動力光熱費	8,638	8,638
雇用費	565,000	565,000
出荷経費	360,792	360,792
支出合計金額（円）	1,402,919	1,402,919
所得試算金額（円）	1,379,878	1,225,078

期待される効果

本県では各種課題解決に向けた取組により栽培面積及び出荷量は増加しているものの（表2）、近年では夏場の高温による生育不良から安定生産、安定出荷に向けた栽培品種転換を検討する生産者が増えている。

今回の栽培試験では本県主力品種を対照に、有望品種を栽培したことで、消灯日ごとの出荷期間や品質等の差を確認することができた。これにより、生産者が次年度以降栽培する品種を検討する際の指標となった。

参考. 本県における小ギク栽培面積及び出荷本数の推移

